

外国人介護士の現状

～EPAによる受入れを中心として～

平成29年4月20日(木)

公益社団法人 国際厚生事業団

専務理事 角田 隆

目次

1. 外国人が介護を本格的に担うことについては様々な意見	3-5
2. 外国人介護職員の概況	6-12
3. 経済連携協定(EPA)による介護福祉士候補者の受入れ	
▪ 受入れの趣旨・要件等	13-15
▪ 受入れの理由	16-18
▪ 受入れ人数	19-20
▪ 学習面	21-29
▪ 業務面	30-34
▪ 日本語能力	35-38
▪ EPA受入れの課題	39-40

1. 外国人が介護を本格的に担うことについては様々な意見

○介護分野の人材増のため多様な施策が行われているが

外国人はカウントされていない

○外国では外国人頼みの傾向

OECD諸国の外国人介護労働者

	外国出身介護労働者の数、介護労働者に占める割合
オーストラリア	高齢者介護施設労働者の33%(2007年) 在宅介護労働者の27%(2007年)
オーストリア	すべての介護提供者(フォーマル、インフォーマルに関わらず)の50% 不法に介護労働に従事している者は40,000人(2006年半ば)
カナダ	施設介護労働者の23%
デンマーク	介護労働者の11%が移民
フランス	IADLに障害のある者を支援する50%~70%
ドイツ	約200,000人の移民介護労働者が存在(2007年)
ギリシア	一般世帯で介護を提供する労働者の70%
イタリア	約100万人。すべての介護労働者の72% 在宅介護労働者として約700,000人の移民が就労
イスラエル	55,000人の移民が介護労働者。すべての介護労働者のおよそ50%
オランダ	介護労働者の8%
スウェーデン	保健福祉分野の新規雇用者19,000人の20% 高齢者および障害者の介護に従事する者の13%(2005年)
イギリス	補助看護師の17%、在宅介護に従事する看護師の17%
アメリカ	介護従事者23%(2009年) 個人および在宅介護者の33%

小島克久(2015)「OECD加盟国における外国出身介護労働者の現状」厚生労働科学研究費補助金政策科学総合研究事業(政策科学推進研究事業)「人口減少期に対応した人口・世帯の動向分析と次世代将来推計システムに関する総合的研究」平成26年度報告書

○日本では外国人労働者の受入れには国論二分

- ・専門的、技術的分野: WELCOME
- ・単純労働者: NO THANK YOU
- ・人口減少下では経済・社会を維持するためには介護分野や単純労働の分野でも積極的に受入れるべき
- ・低賃金に繋がるほか、居住地のスラム化、教育問題など先進国は苦勞している

○経済連携(EPA)の受入れだけが認められているが、技能実習制度による介護実習生の受入れ、介護福祉士に対するビザの付与が可能となる。

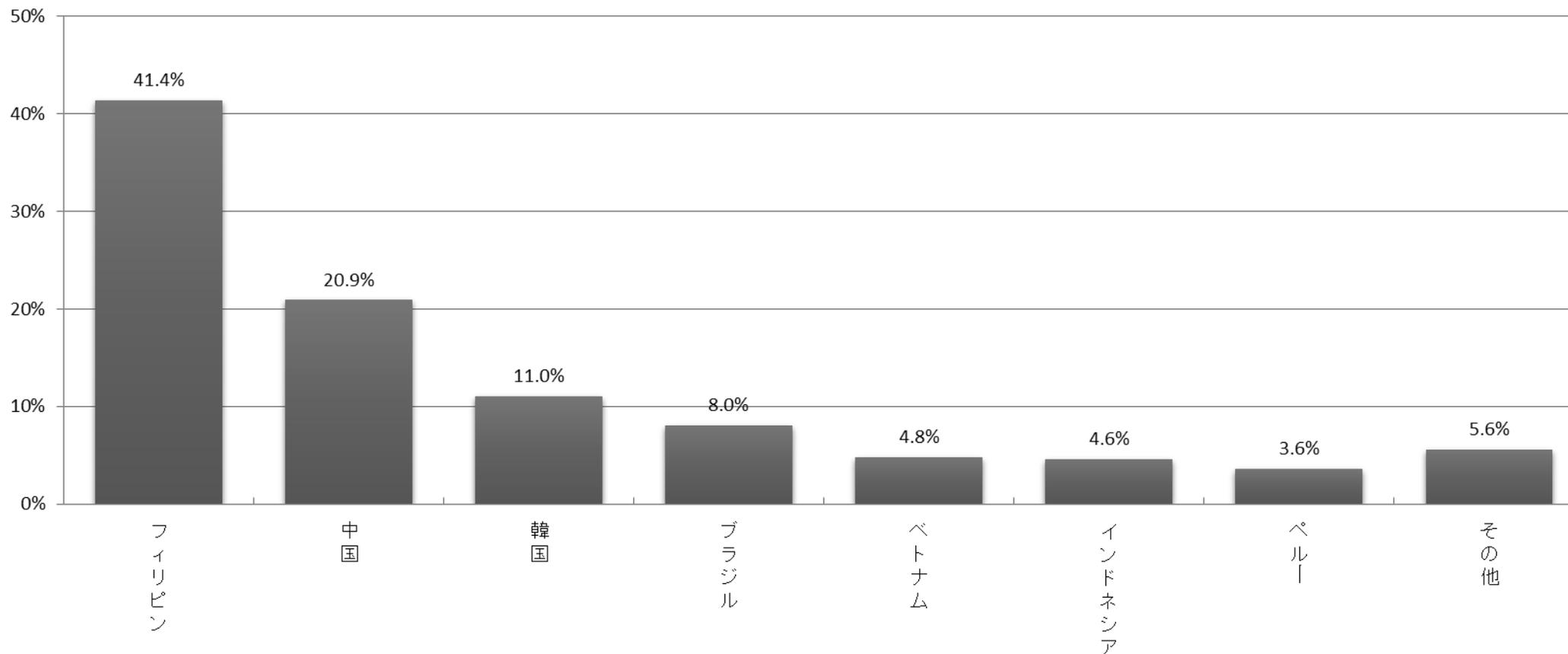
2. 外国人介護職員の概況

○介護分野の外国人介護職員数は3,500人位と見込まれる

- ・国別ではフィリピン人が42%を占め最も多い

○介助はほぼこなし、会議参加、記録に課題はあるが、期待は高い

雇用している外国人介護労働者の国籍と人数 〔人数合計別比率〕



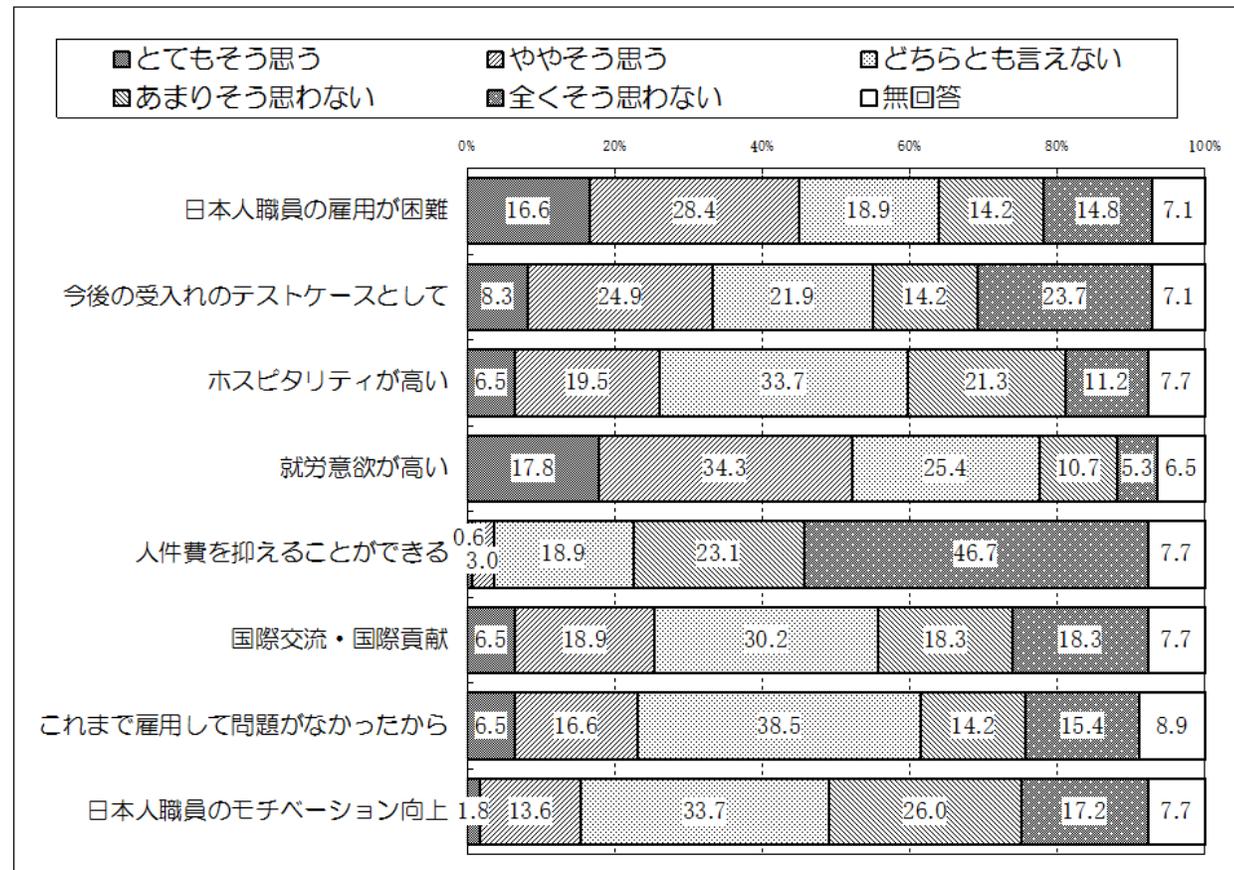
介護の仕事をはじめた理由〔複数回答〕

- 介護の仕事をはじめた理由を見ると、「やりがいがある仕事だから／人の役に立ちたかったから」(59.3%)の割合が最も高く、次に「自分に向いていると思ったから」(42.3%)である。

	件数	ちだや たかり からが つ／い た人が かのあ ら役に 立事	思自 つ分 たに か向 らい てい ると	あ介 つ護 たの か仕 ら事 の経 験が	てが通 い自勤 た分時 かの間 ら希や 望勤 と務 合条 つ件	な他の かの仕 つ事 たに から採 用さ れ	る正 か規 ら職 員と して 働け	わ友 れ人 た・ か知 り合 いに 誘	そ の 他	無 回 答
全 体	194 100.0	115 59.3	82 42.3	23 11.9	41 21.1	5 2.6	28 14.4	42 21.6	12 6.2	5 2.6

外国人介護労働者の雇用理由 (n=169)

- 雇用理由を見ると、「とてもそう思う」及び「ややそう思う」の合計が高いのは、「就労意欲が高い」(52.1%)、「日本人職員の雇用が困難」(45.0%)である。一方、「全くそう思わない」又は「あまりそう思わない」の合計が高いのは、「人件費を抑えることができる」(69.8%)である。



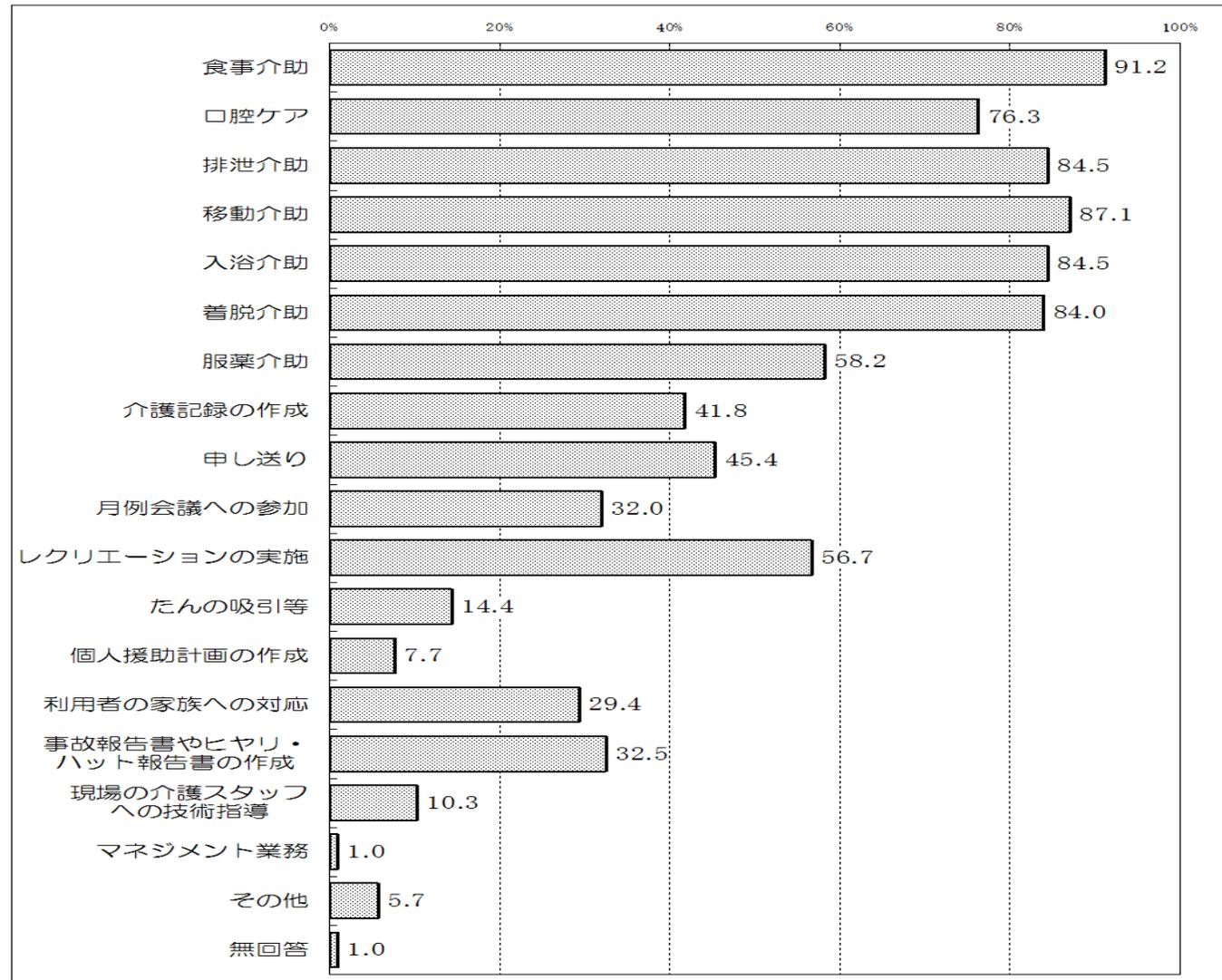
日本で介護職員として働きたい期間

- 日本で介護職員として働きたい期間を見ると、「わからない」(26.8%)の割合が最も高い。

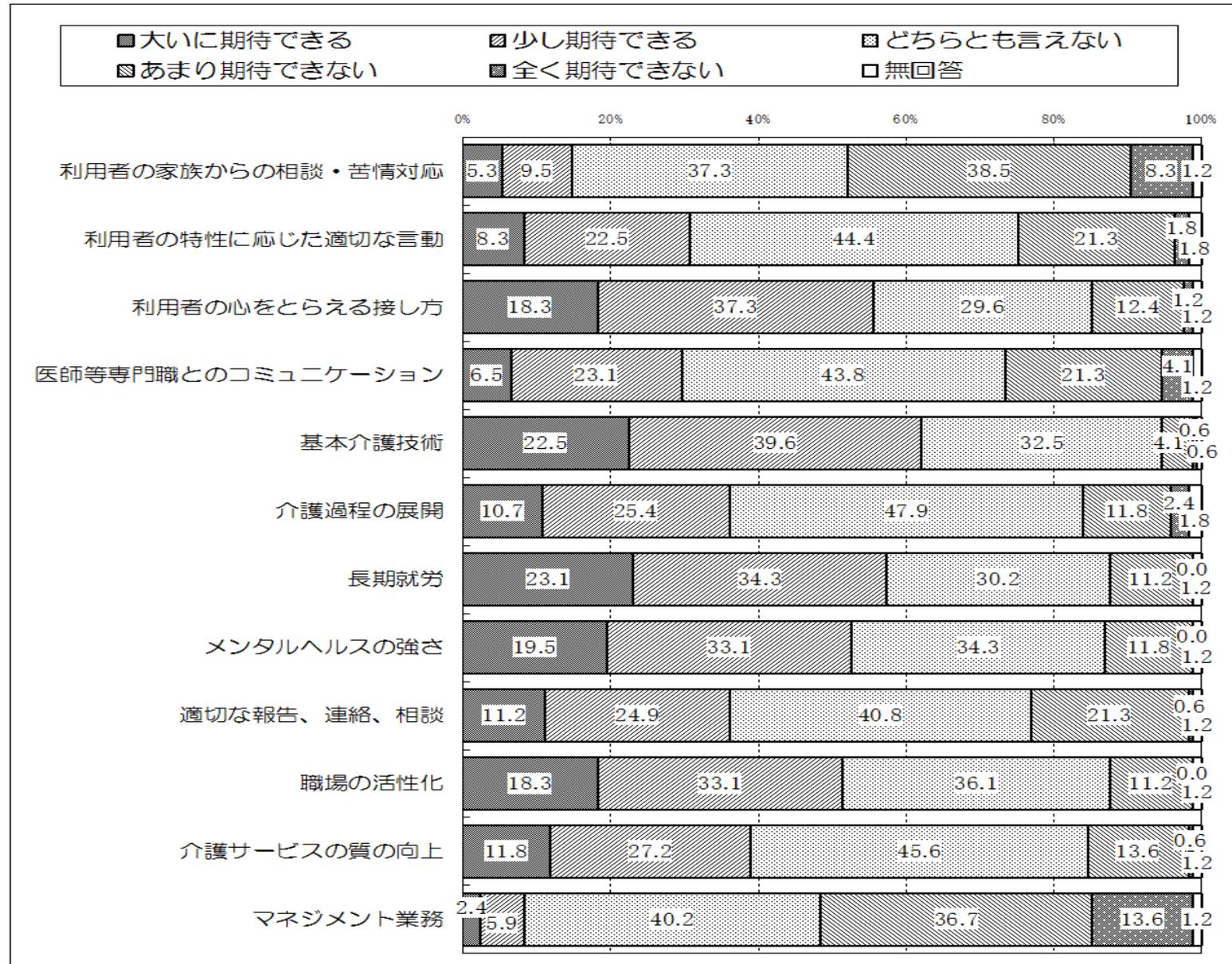
	件数	半年位続けたい	1～2年位続けたい	3～5年位続けたい	6～10年位続けた	11～20年位続け	21年以上続けたい	わからない	無回答
全 体	194	2	7	29	27	29	42	52	6
	100.0	1.0	3.6	14.9	13.9	14.9	21.6	26.8	3.1

現在の担当業務〔複数回答〕(n=194)

- 現在の担当業務を見ると、「食事介助、口腔ケア、排泄介助、移動介助、入浴介助、着脱介助」を担当している割合が76.3%～91.2%である。



外国人介護労働者に対する期待度 (n=169)

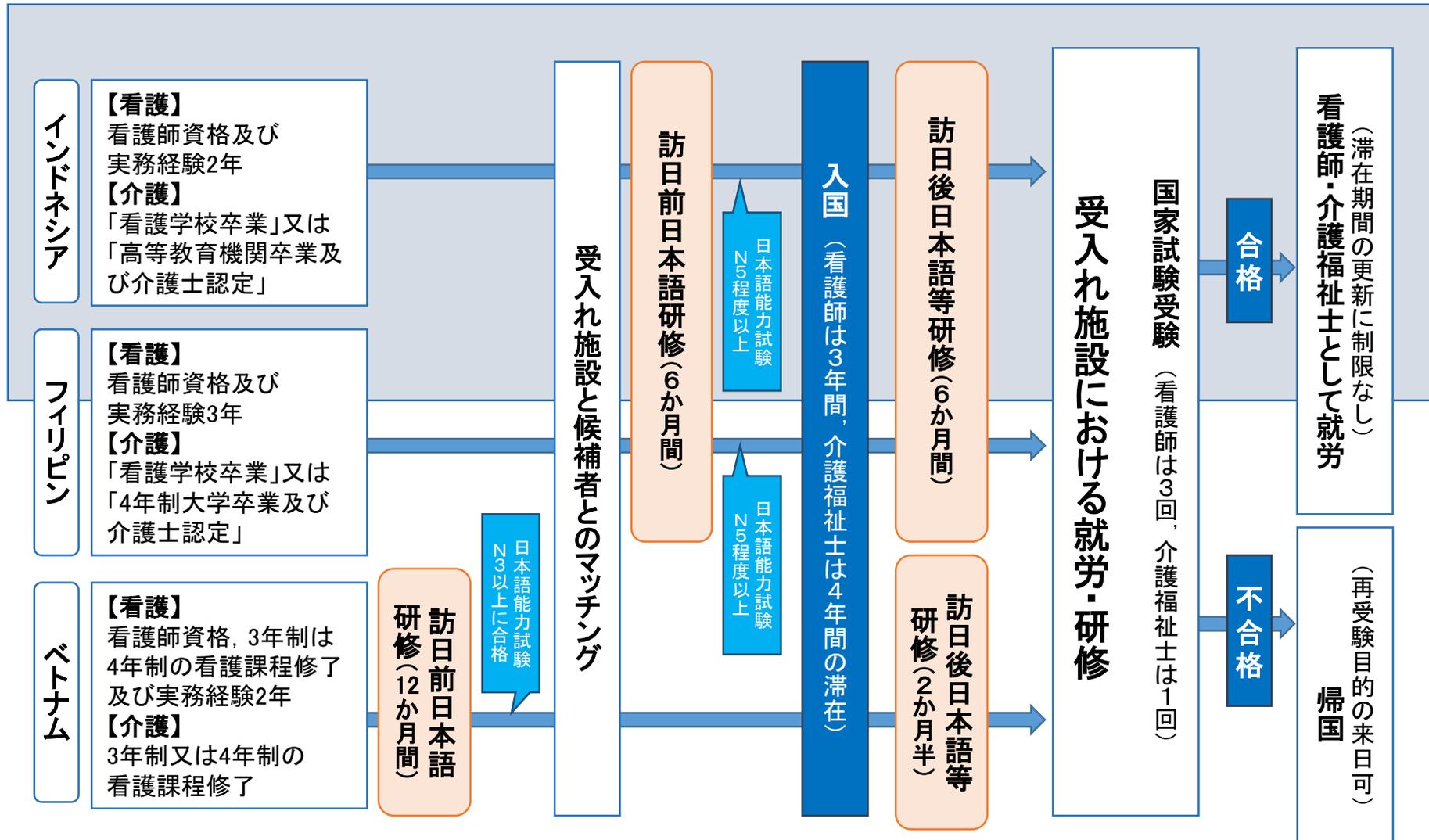


3. 経済連携協定（EPA）による介護福祉士候補者の受入れ

○受入れの趣旨

- ・候補者の受入れは、経済活動の連携強化の観点から、二国間の協定に基づき、公的な枠組みで特例的に行うものであり、介護分野における労働力不足への対応のために行うものでない
- ・介護福祉士資格の取得を目的とした活動を行うことで入国が許されるもの
- ・国家資格取得前については、受入れ施設が国家資格の取得を目標とした適切な研修を実施することが重要となる
- ・候補者は、介護福祉士の資格の取得に必要な知識及び技術の修得に精励するとともに、取得後は両国の保健医療及び福祉の発展に貢献するよう、努めるものとする

経済連携協定に基づく看護師・介護福祉士候補者受入れ概要



※ 日本語能力試験N2以上の候補者は日本語研修を免除。

介護福祉士候補者受入れ機関・施設の主な要件

1. 定員30名以上の介護保険三施設、一定の条件を満たすサテライト型施設、地域密着型施設、有料老人ホーム等
2. 常勤介護職員の4割以上が介護福祉士有資格者であること。
3. 候補者に対して日本人と同等以上の報酬を支払うこと。
4. 国家試験受験に配慮した介護研修計画書を作成すること。
5. 研修責任者^(※)、研修支援者の配置等研修体制を確保すること。
(※)原則として、5年以上介護業務の経験及び介護福祉士有資格者。
6. 定期(随時)報告の提出、巡回訪問への協力を拒否したことがないこと。

等

○受入れの状況

・来日の理由

候補者 家族を経済的に助ける、政府間なので安心、進んだ技術を学ぶ
アジアの先進国、日本が好き、規律
帰国して介護施設を経営、家族のほまれ

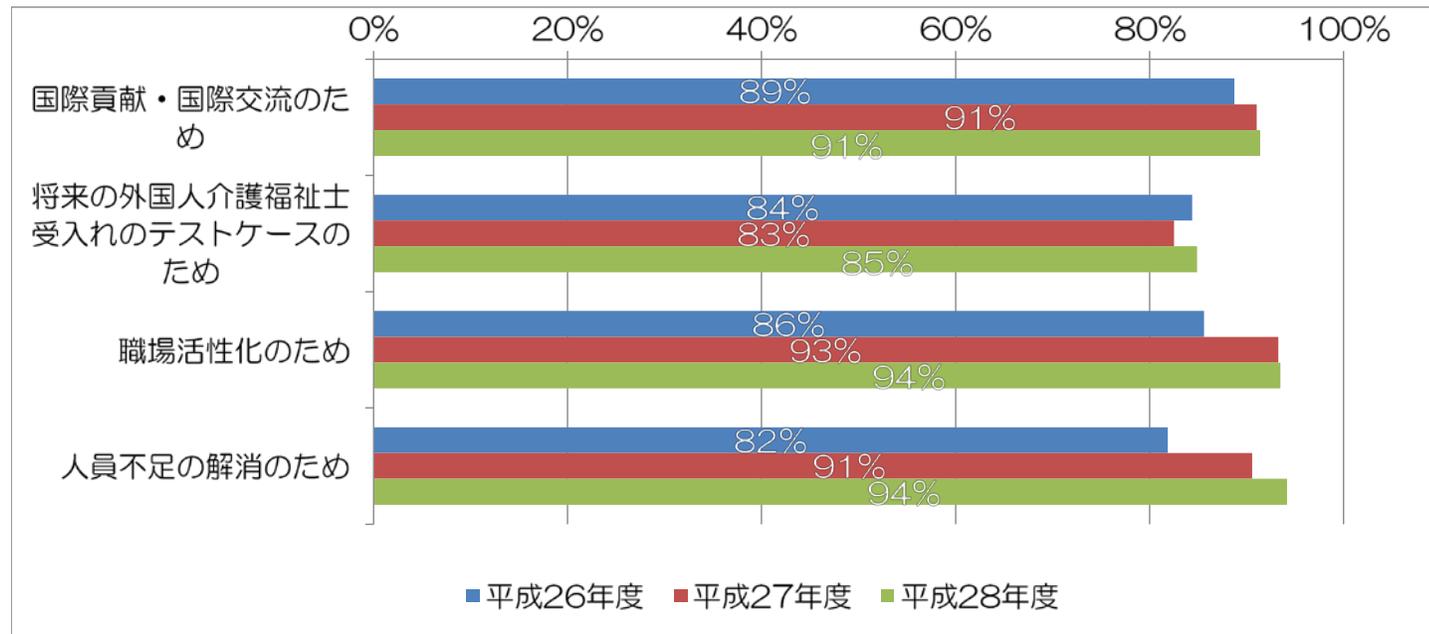
・受入れの理由

施設 国際貢献、将来の外国人介護士受入れのテストケース
職場の活性化、人員不足への対応

EPA候補者を受入れた目的

- 「EPA候補者を受入れた目的」について質問したところ、「国際貢献・国際交流のため」262件、「将来の外国人看護師・介護福祉士の受入れのテストケースのため」244件、「職場の活性化のため」268件、「看護補助者・介護職員の人員不足の解消のため」270件という回答があった。

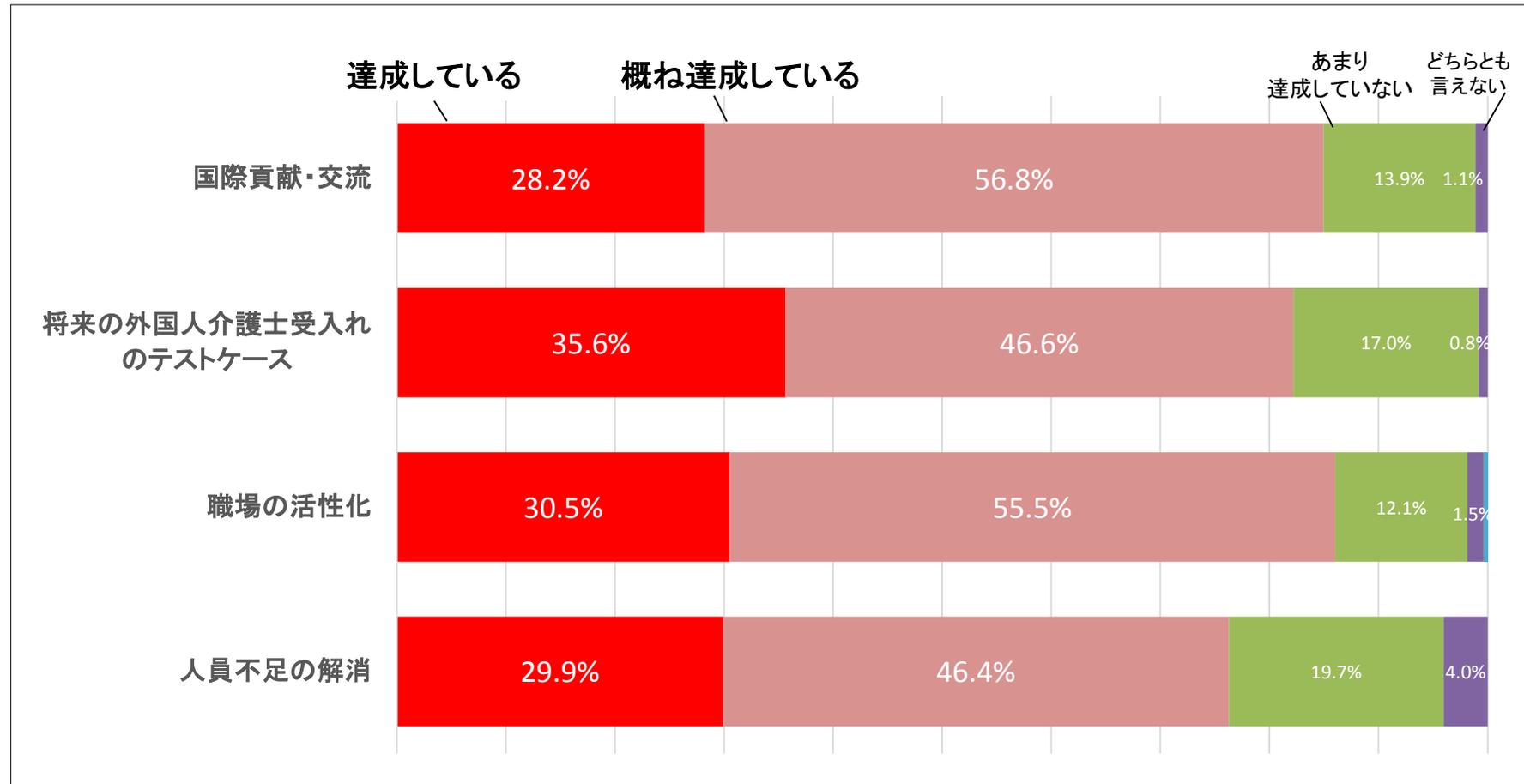
候補者の受入れ目的について(複数回答)年度比較



※出典：平成28年度巡回訪問調査

候補者受入れ目的の達成状況(介護福祉士候補者)

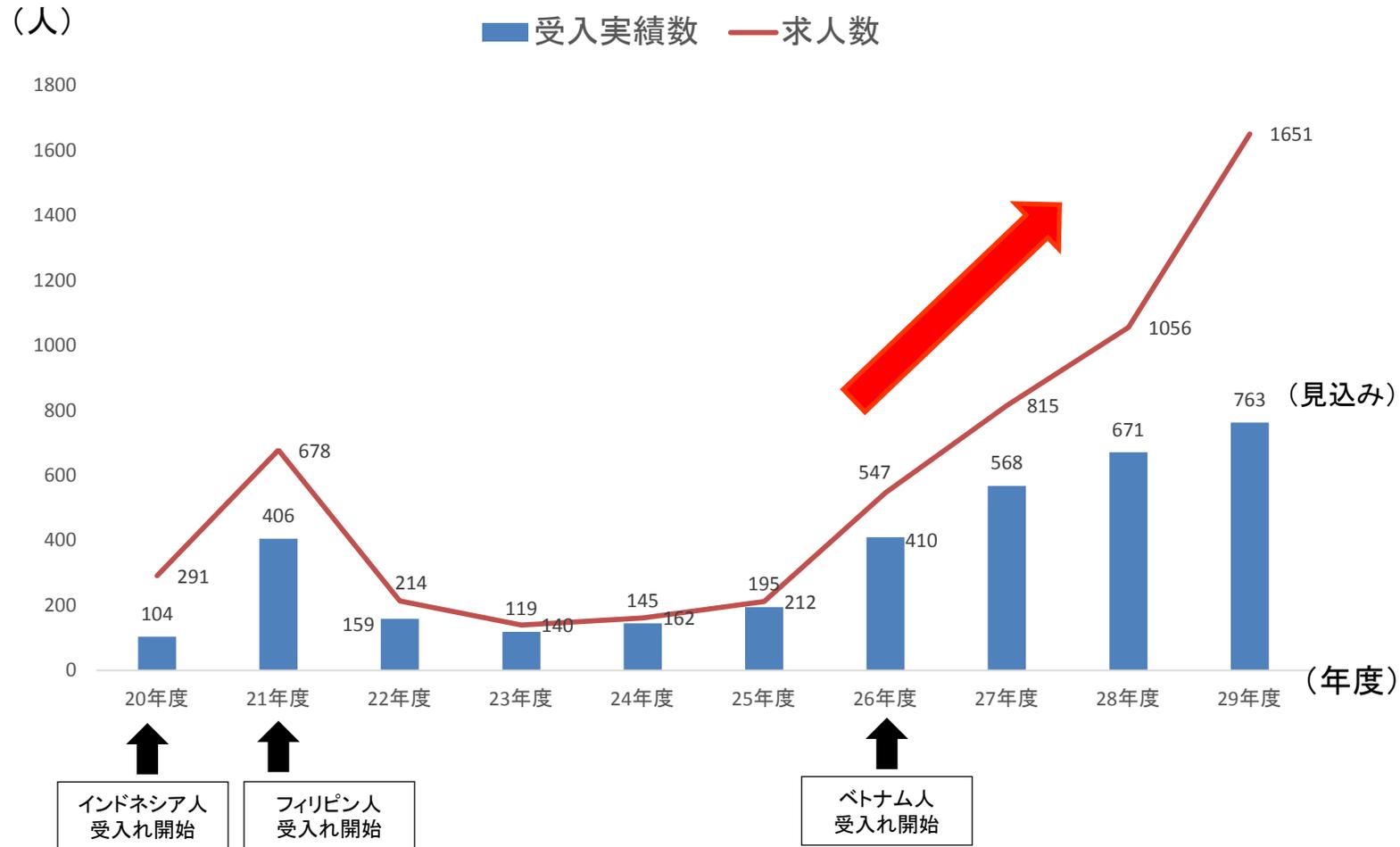
「達成」又は「概ね達成」の割合は、「職場の活性化」が約9割、「国際貢献（交流）」、「外国人受入テストケース」が8割以上、「人員不足解消」が約8割。



※出典：平成28年度巡回訪問調査

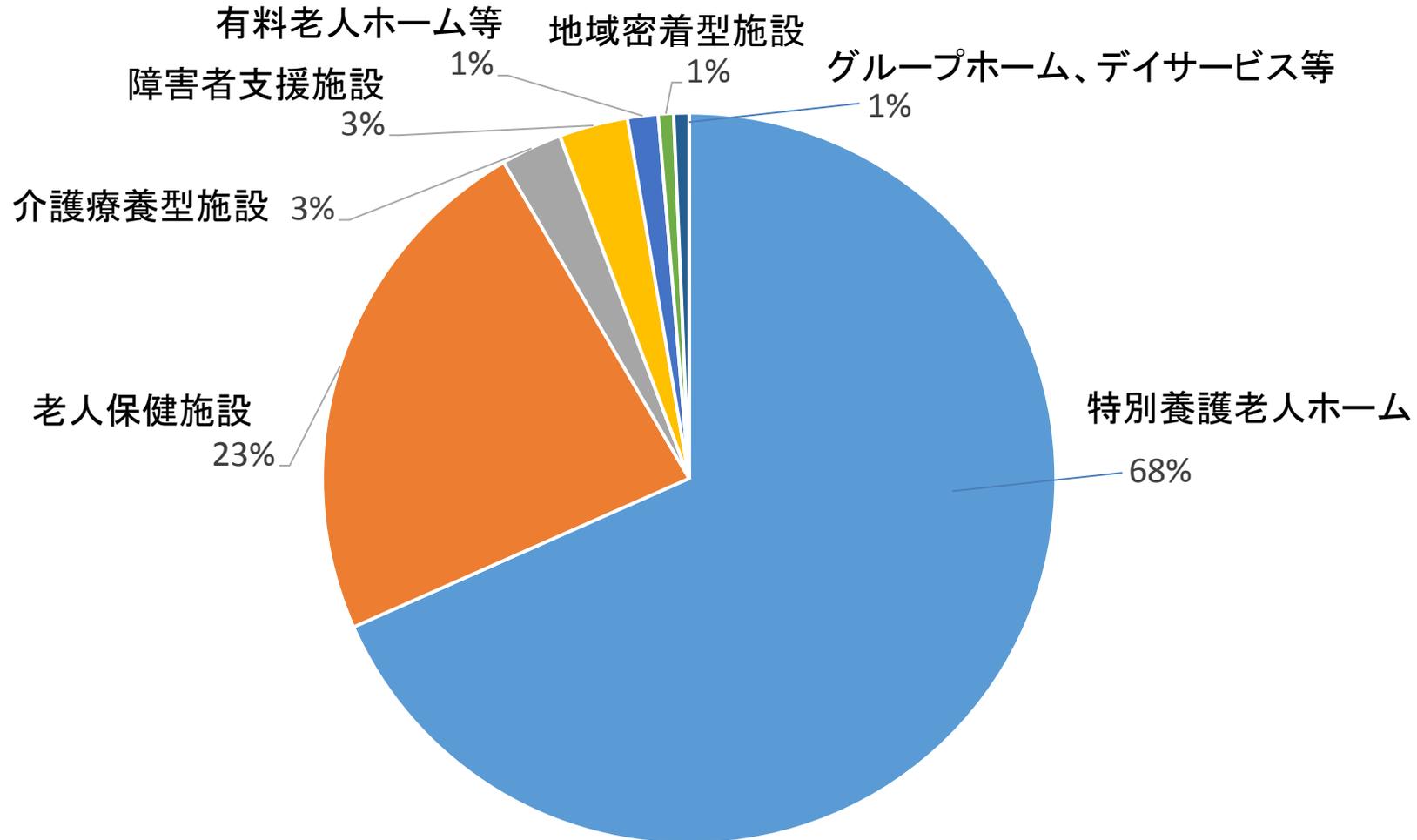
EPA介護福祉士候補者の求人数と受入れ人数の推移 (インドネシア人・フィリピン人・ベトナム人)

平成28年度までに2777名を受入れ。29年度受入れは700名超の見込み。
近年は、介護福祉士候補者の受入れ数が急増。



(※)平成29年度受入れ人数は、尼比は訪日前日本語研修中、越はマッチング中のため、見込み数。

平成29年度 受入れ施設種別の受入れ人数割合(見込み) (インドネシア人・フィリピン人・ベトナム人介護福祉士候補者)



※N=764人(平成29年度尼比受入れ見込み者数)

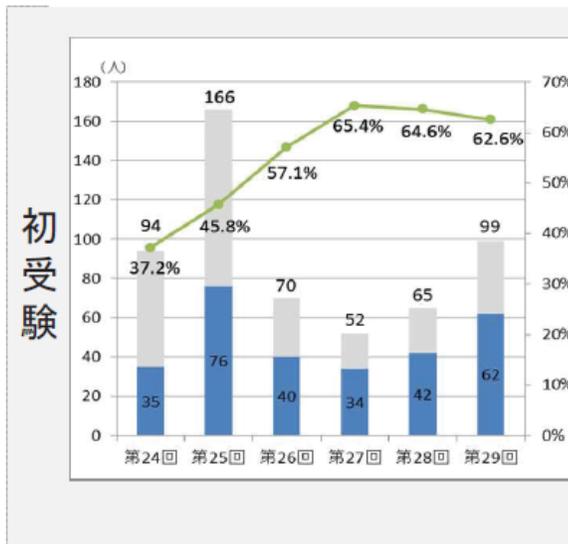
第29回介護福祉士国家試験結果

【合格率】

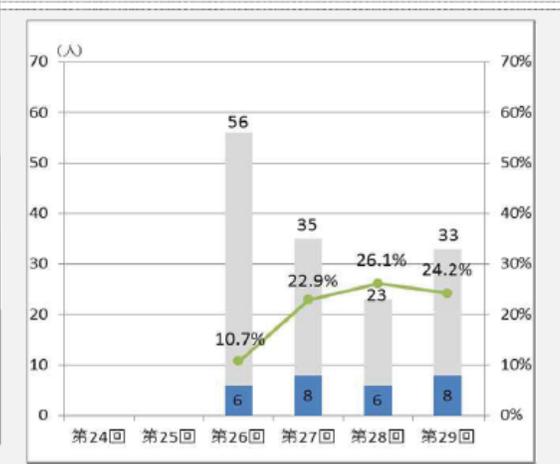
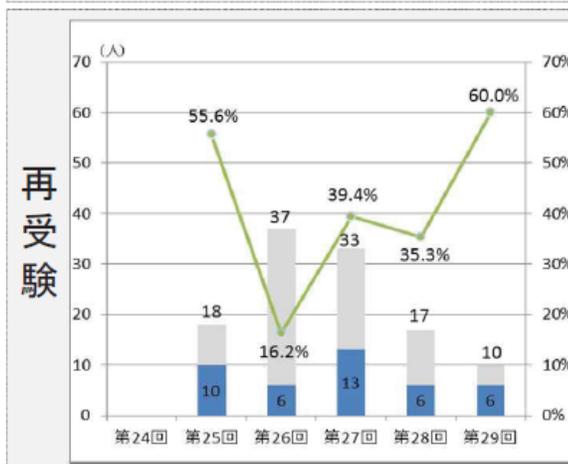
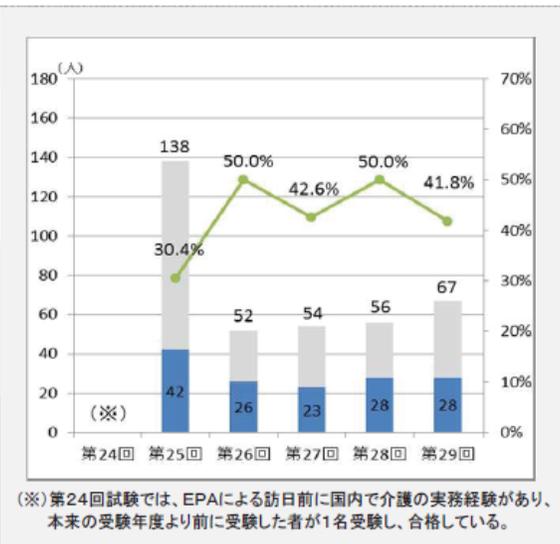
		第24回	第25回	第26回	第27回	第28回	第29回	
全受験者		63.9%	64.4%	64.6%	61.0%	57.9%	72.1%	
EPA 候補者	全体	合格率	37.9%	39.8%	36.3%	44.8%	50.9%	49.8%
		合格者数	36人	128人	78人	78人	82人	104人
	初受験者	合格率	37.9%	38.8%	54.1%	53.8%	57.9%	54.2%
		合格者数	36人	118人	66人	57人	70人	90人
	再受験者	合格率	-	55.2%	12.9%	30.9%	30.0%	32.6%
		合格者数	-	10人	12人	21人	12人	14人

【各国の初受験・再受験別合格者数】

インドネシア



フィリピン



【 第29回介護福祉士国家試験結果の内訳 】

		前回（第28回（H27年度））			今回（第29回（H28年度））		
		受験者数	合格者数	合格率	受験者数	合格者数	合格率
インドネシア	合計	82	48	58.5	109	68	62.4
	初受験	65	42	64.6	99	62	62.6
	再受験	17	6	35.3	10	6	60.0
フィリピン	合計	79	34	43.0	100	36	36.0
	初受験	56	28	50.0	67	28	41.8
	再受験	23	6	26.1	33	8	24.2
EPA合計		161	82	50.9	209	104	49.8

全受験者の国家試験結果 合格者数 55,031人 / 受験者数 76,323人 （合格率 72.1 %）

【 入国年度別候補者の累積合格率 】

		受験者数 (人)	累積 合格者数 (人)	(内訳)						累積 合格率 (%)
				第24回	第25回	第26回	第27回	第28回	第29回	
				H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	
インドネシア	第1陣（H20年度入国）	94	46	35	10	1	-	-	-	48.9
	第2陣（H21年度入国）	165	82	-	75	5	2	-	-	49.7
	第3陣（H22年度入国）	71	54	-	1	40	11	2	-	76.1
	第4陣（H23年度入国）	52	38	-	-	-	34	4	-	73.1
	第5陣（H24年度入国）	65	48	-	-	-	-	42	6	73.8
	第6陣（H25年度入国）	99	62	-	-	-	-	-	62	62.6
フィリピン	第1陣（H21年度入国）	138	51	1	40	6	3	-	1	37.0
	第2陣（H22年度入国）	52	33	-	1	26	5	-	1	63.5
	第3陣（H23年度入国）	51	27	-	1	-	20	6	-	52.9
	第4陣（H24年度入国）	56	33	-	-	-	2	24	7	58.9
	第5陣（H25年度入国）	67	30	-	-	-	1	4	25	44.8
	第6陣（H26年度入国）	1	1	-	-	-	-	-	1	100.0
	第7陣（H27年度入国）	3	1	-	-	-	-	-	1	33.3

- …本来の受験年度の者
- …再受験年度の者
- …その他

就労時間内の週当たりの総学習時間の平均(施設の回答)

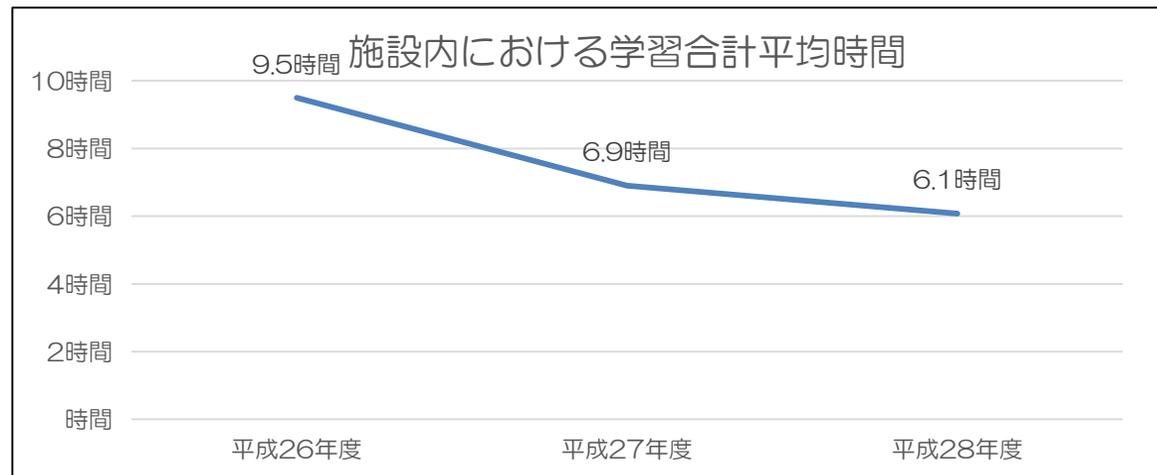
項目	H24尼	H24比	H25尼	H25比	H26尼	H26比	H26越	H27尼	H27比	H27越	全体
学習平均回数(回)	0.5	1.2	1.2	2.1	1.5	2.1	1.3	1.8	2.0	1.7	1.7
学習平均時間(時間)	1.2	2.8	3.2	4.6	4.1	4.6	4.0	4.4	4.9	4.7	4.3

就労時間外の週当たりの総学習時間の平均(施設の回答)

項目	H24尼	H24比	H25尼	H25比	H26尼	H26比	H26越	H27尼	H27比	H27越	全体
学習平均回数(回)	1.4	1.4	0.6	0.8	1.0	0.8	0.8	0.8	1.2	0.7	0.9
学習平均時間(時間)	4.7	3.4	2.0	2.1	2.0	1.5	1.4	1.7	1.7	1.5	1.8

施設内における就労時間内・外合計の週当たりの総学習時間の平均(施設の回答)

項目	H24尼	H24比	H25尼	H25比	H26尼	H26比	H26越	H27尼	H27比	H27越	全体
学習平均回数(回)	1.9	2.7	1.9	2.9	2.5	2.9	2.1	2.6	3.1	2.4	2.6
学習平均時間(時間)	5.9	6.3	5.2	6.7	6.1	6.1	5.5	6.1	6.6	6.1	6.1

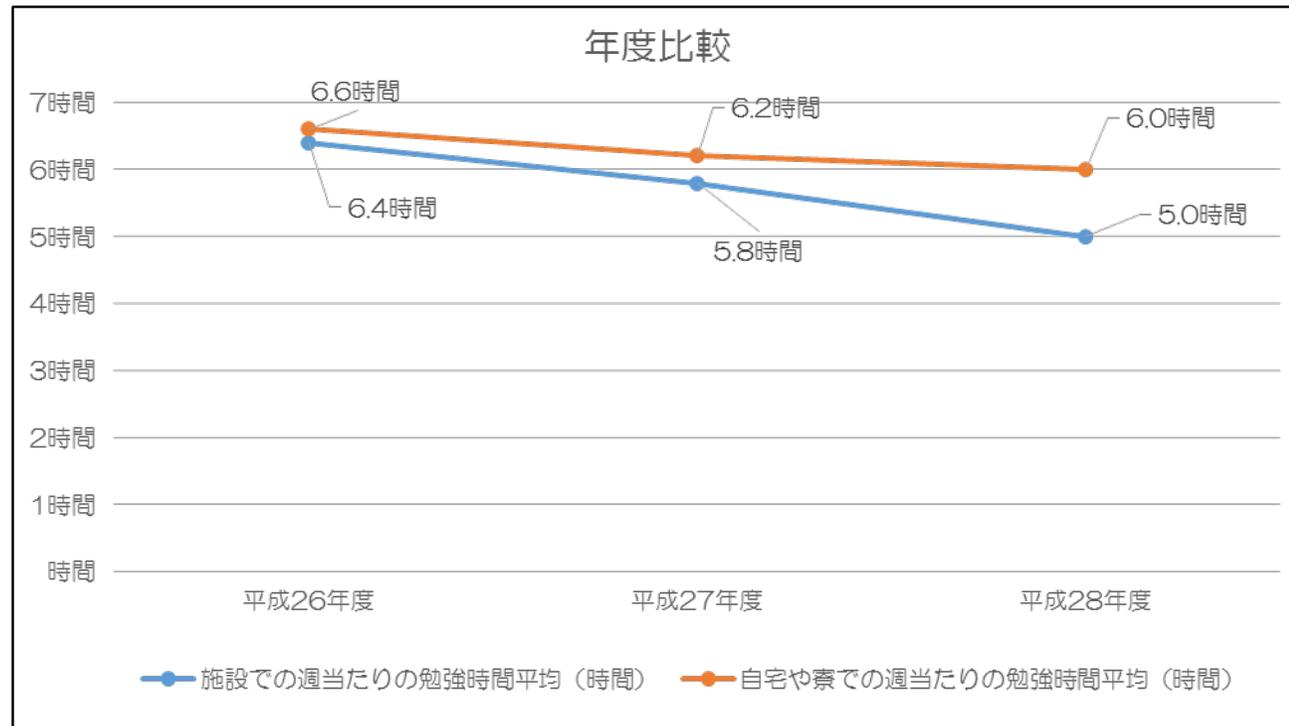


施設での週当たりの勉強時間(平均時間)(候補者の回答)

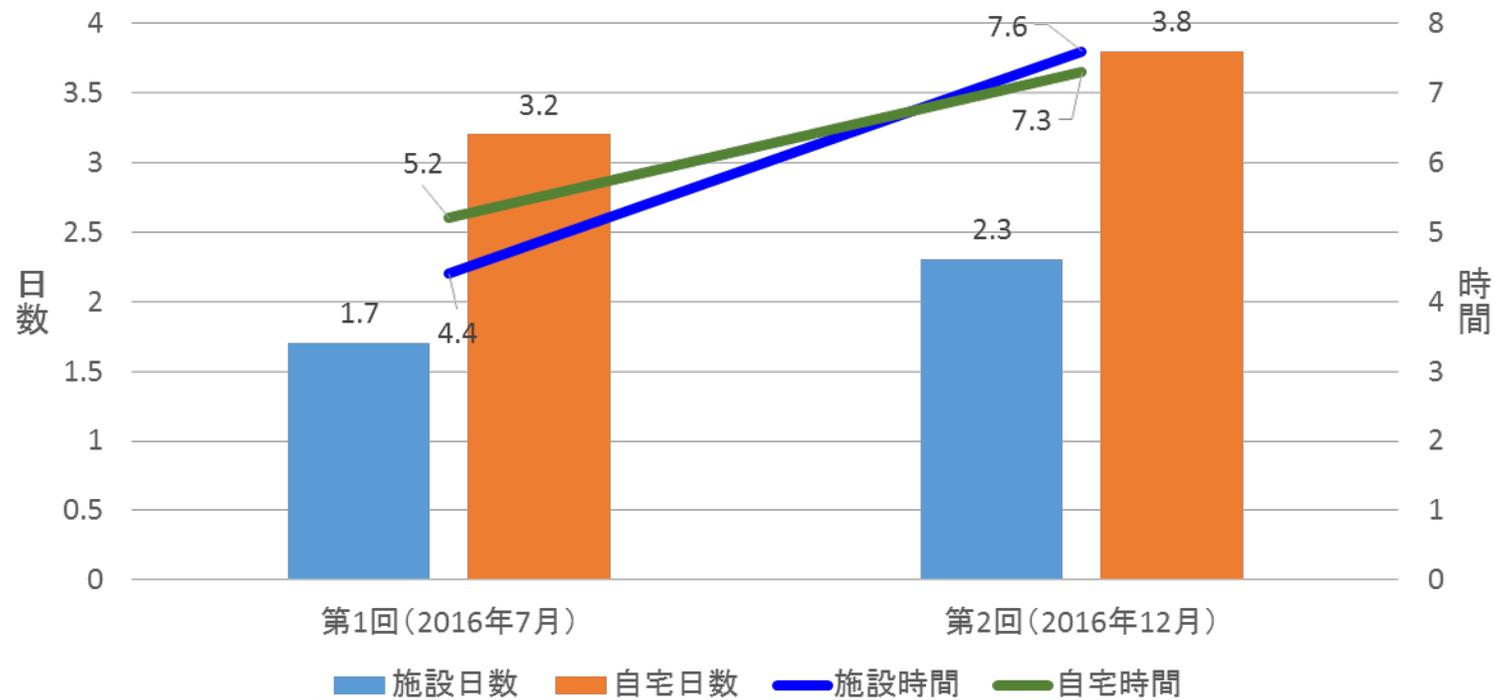
項目	H24尼	H24比	H25尼	H25比	H26尼	H26比	H26越	H27尼	H27比	H27越	全体
平均学習時間(時間)	3.9	4.6	4.1	5.2	4.5	5.0	4.5	5.6	5.4	4.8	5.0

自宅や寮での週当たりの勉強時間(平均時間)(候補者の回答)

項目	H24尼	H24比	H25尼	H25比	H26尼	H26比	H26越	H27尼	H27比	H27越	全体
平均学習時間(時間)	7.1	7.4	6.2	5.5	5.1	4.9	6.1	5.9	6.1	8.1	6.0



就労3年目における学習時間の変化

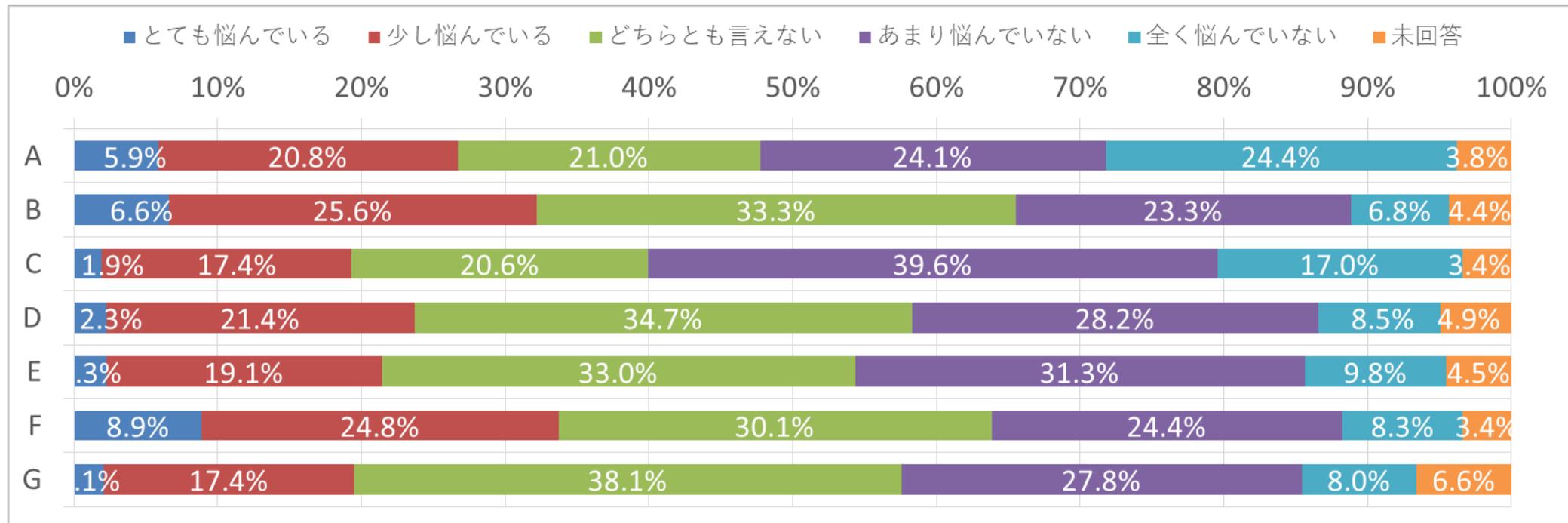


	施設日数	自宅日数	施設時間	自宅時間
第1回(2016年7月)	1.7日	3.2日	4.4時間	5.2時間
第2回(2016年12月)	2.3日	3.8日	7.6時間	7.3時間

学習の悩み(就労1年目)

就労1年目

- A. 施設に勉強を教えてくれる人がいない。
- B. 自分の苦手分野がわからない。
- C. JICWELSから配られたテキストの使い方がよくわからない。
- D. 学習計画の立て方がわからない。
- E. 予習・復習のやり方がわからない。
- F. 勉強時間が作れない。
- G. 介護の仕事になじめない。



学習の悩み(就労2年目)

就労2年目 (※複数回答あり)

- ①施設から十分な学習時間をもらえない。
- ②自宅で勉強する時間がとれない。
- ③勉強を教えてくれる人(職員や先生)がいない。
- ④勉強のやり方がわからない
- ⑤新カリキュラムの内容が難しい
- ⑥JICWELSから提供されるテキストや学習ツールの使い方がわからない。
- ⑦勉強した内容が、毎日の介護の仕事の内容と結びつかず理解できない。
- ⑧来日前に考えていた介護の仕事のイメージと違う。
- ⑨その他

	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
平成29年 1月	22.6%	42.4%	14.5%	8.4%	15.2%	3.0%	6.7%	2.7%	8.1%

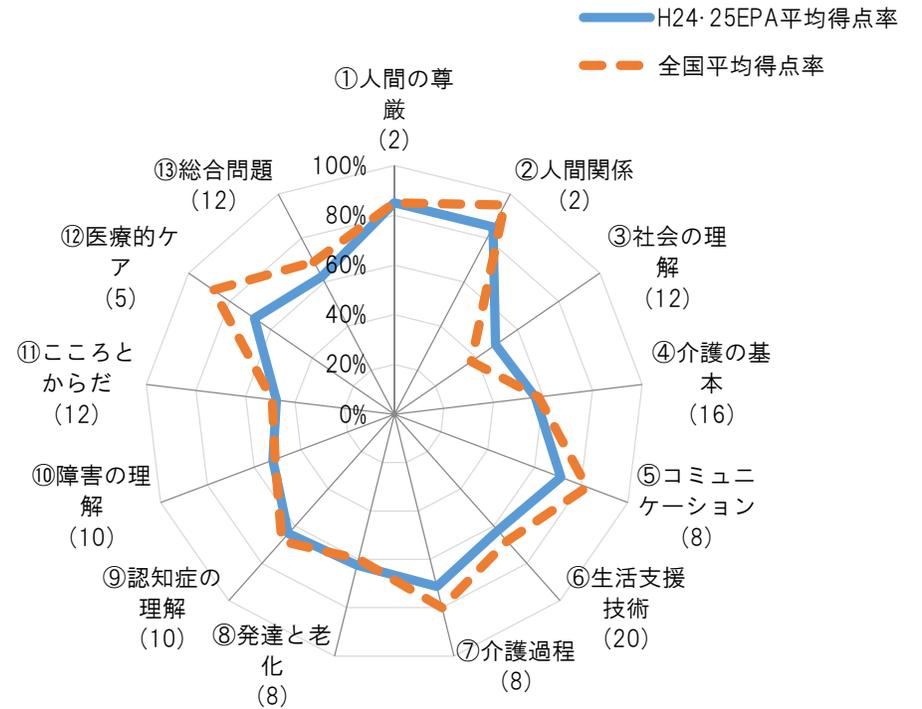
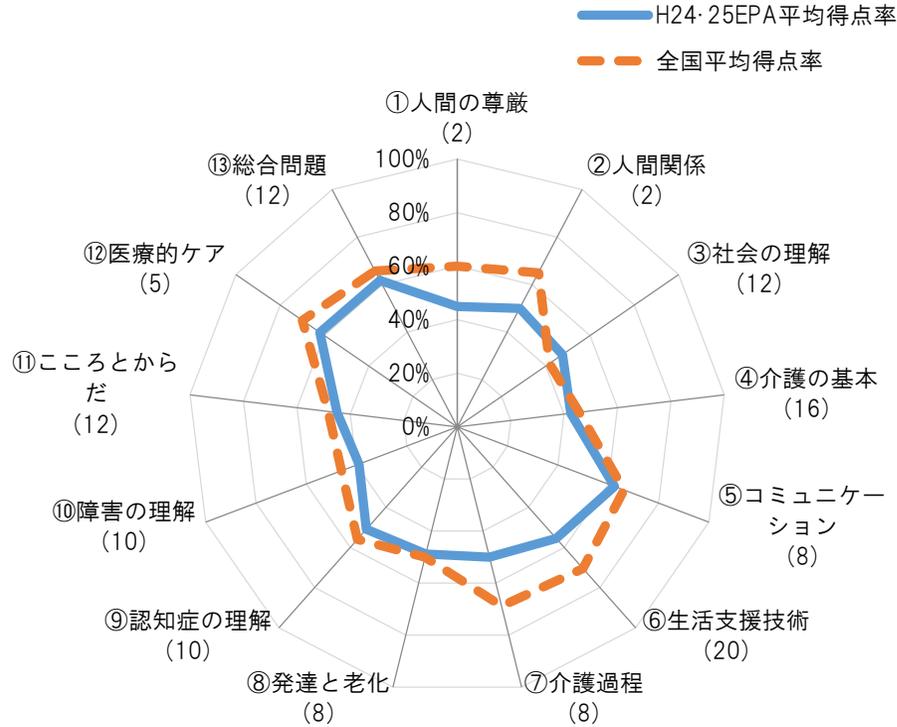
就労3年目における成績の推移【対全国】

第1回模擬試験

(平成28年7月実施)

第2回模擬試験

(平成28年12月実施)



H24・25EPA平均点 (125点満点)	63.2	50.6%
全国平均点数 (125点満点)	71.3	57.0%

得点率9.6%UP



H24・25EPA平均点 (125点満点)	75.3	60.2%
全国平均点数 (125点満点)	79.4	63.5%

介護福祉士候補者への学習支援及び試験上の配慮

訪日前

日本語研修
・インドネシア、フィリピン6カ月
・ベトナム1年間

訪日後

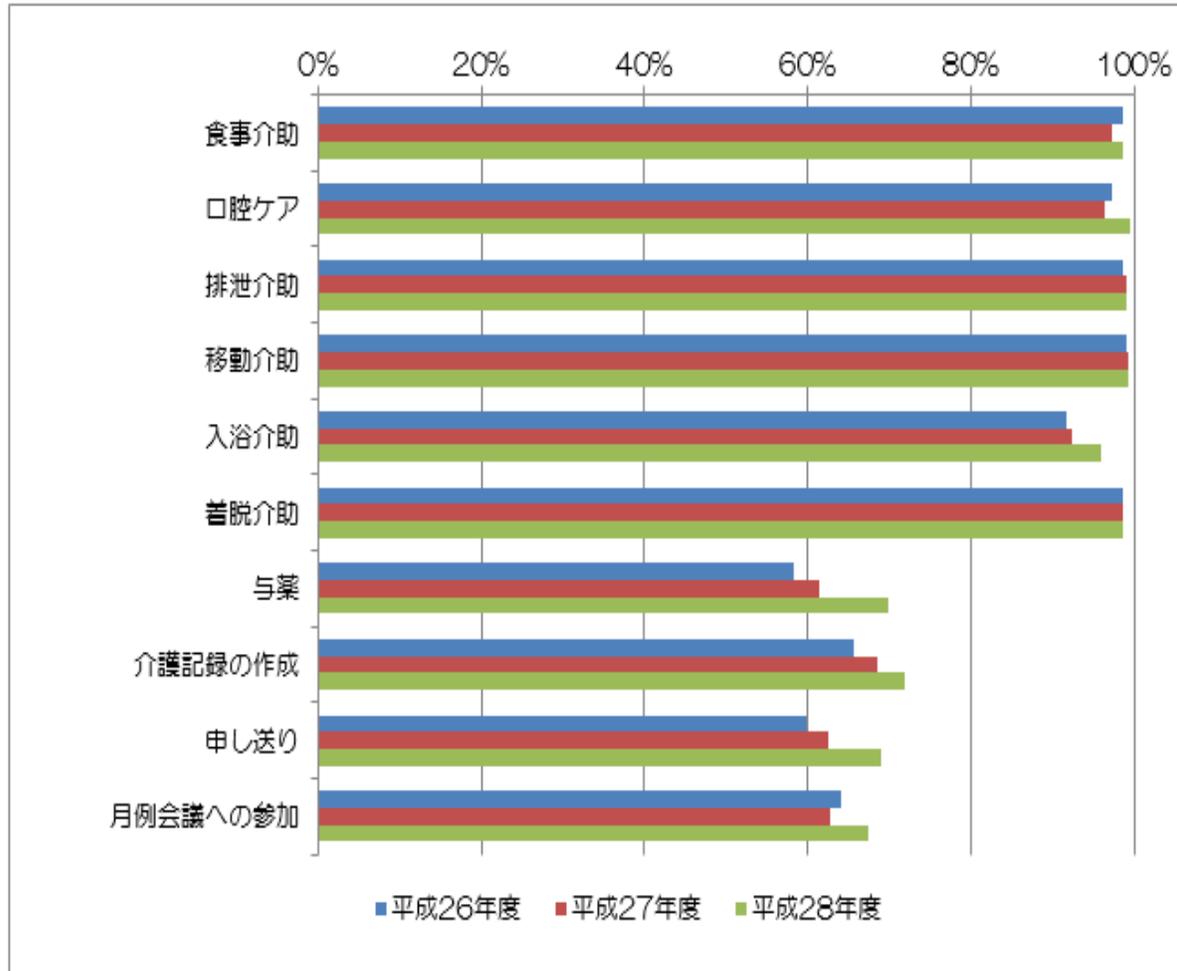
介護導入研修・就労ガイダンス（約10日）
受入れ施設対象就労前説明会
日本語等研修・インドネシア、フィリピン6カ月
・ベトナム2、5カ月

受入れ施設での就労・研修中

1. 受入れ施設での学習経費の支援（都道府県を通じた助成）
 - 候補者1人当たり年間235千円以内
 - (1) 日本語講師や養成校教員等の受入れ施設への派遣
 - (2) 日本語学校への通学
 - (3) 模擬試験や介護技術講習会への参加
 - (4) 学習支援に必要な備品購入費
 - 候補者1人当たり年間95千円以内（平成29年度予算事業（案））
喀痰吸引等研修の受講
 - 1施設当たり年間80千円以内
受入れ施設の研修担当者への手当 等
2. 外国人介護福祉士候補者学習支援事業
（実施団体：国際厚生事業団（H28年度実績））
 - (1) 就労年度別の集合研修（模擬試験含む）及び通信添削
 - (2) 国家試験対策学習教材、国家試験対策動画講義の提供
 - (3) 学習の進め方オリエンテーション動画の配信、学習相談、
チャレンジ問題メール等の配信、自己学習チェックシートの提供
 - (3) 介護福祉士の資格を取得できずに帰国した候補者の母国での
再チャレンジ支援
（模擬試験・通信添削指導の実施、学習相談窓口の設置）
3. 国際厚生事業団による受入支援
 - (1) 相談窓口の設置（英語・インドネシア語・ベトナム語対応）
 - (2) 受入れ施設への巡回訪問（就労状況等の確認、日本語専門家による助言）
 - (3) メールマガジンの配信（EPA関連情報等の提供）
 - (4) 学習教材の配布
 - (5) 国家試験過去問題の翻訳・提供（インドネシア語、英語、ベトナム語版）
 - (6) 研修好事例等を受入れ施設担当者に提供
 - (7) 日本語・漢字統一試験の実施、標準的かつ具体的な学習プログラムの提示

介護福祉士国家試験受験
全ての漢字へのふりがな付記、
試験時間の延長（1.5倍）、
疾病名等への英語併記等、

候補者の業務年度比較



項目	平成26年度	平成27年度	平成28年度
食事介助	459件(98.7%)	713件(97.4%)	1101件(98.6%)
口腔ケア	452件(97.2%)	705件(96.3%)	1111件(99.5%)
排泄介助	459件(98.7%)	725件(99.0%)	1106件(99.0%)
移動介助	461件(99.1%)	727件(99.3%)	1109件(99.3%)
入浴介助	427件(91.8%)	677件(92.5%)	1072件(96.0%)
着脱介助	459件(98.7%)	722件(98.6%)	1102件(98.7%)
与薬	271件(58.3%)	449件(61.3%)	781件(69.9%)
介護記録の作成	305件(65.6%)	502件(68.6%)	802件(71.8%)
申し送り	278件(59.8%)	458件(62.6%)	770件(68.9%)
月例会議への参加	298件(64.1%)	460件(62.8%)	754件(67.5%)
レクリエーションの実施	328件(70.5%)	577件(78.8%)	870件(77.9%)
その他	21件(4.5%)	64件(8.7%)	124件(11.1%)

・施設職員、利用者からの評価は高い

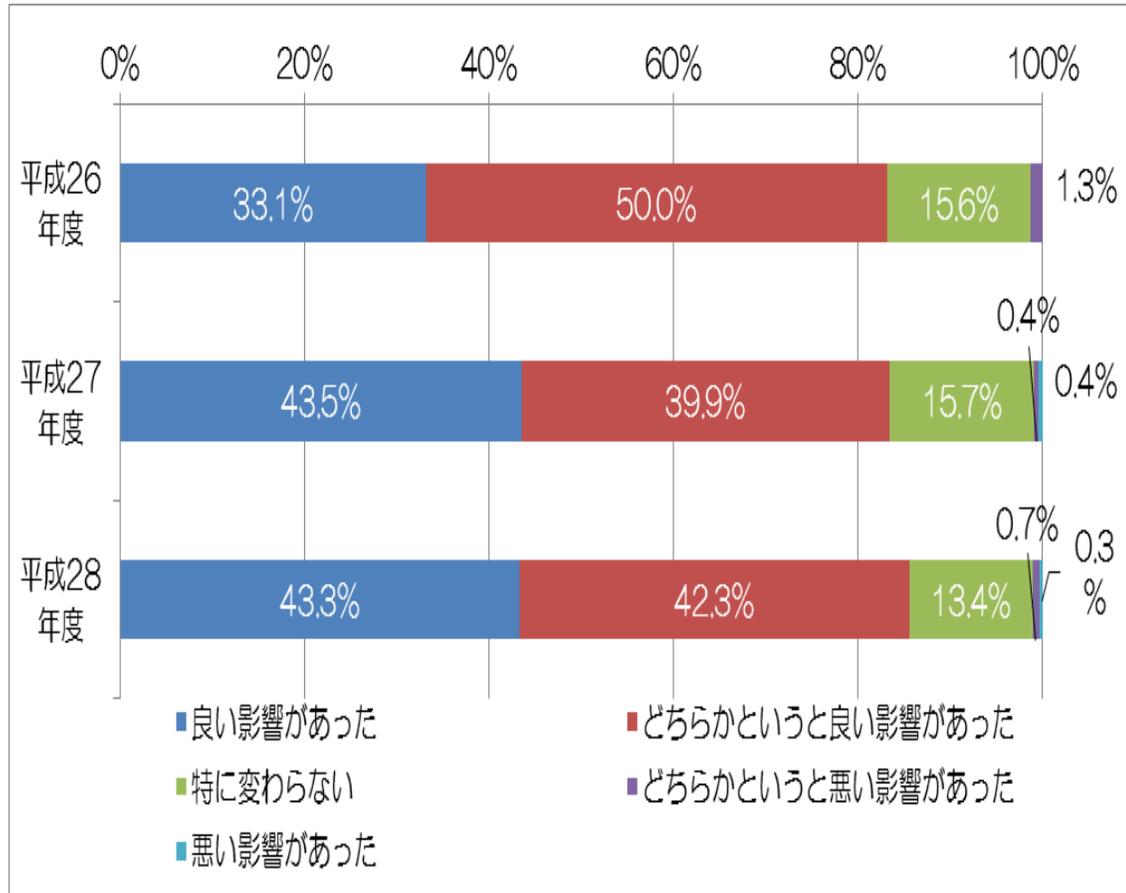
大家族で育ち老人の世話に慣れている

優しい、明るい、真面目な人柄

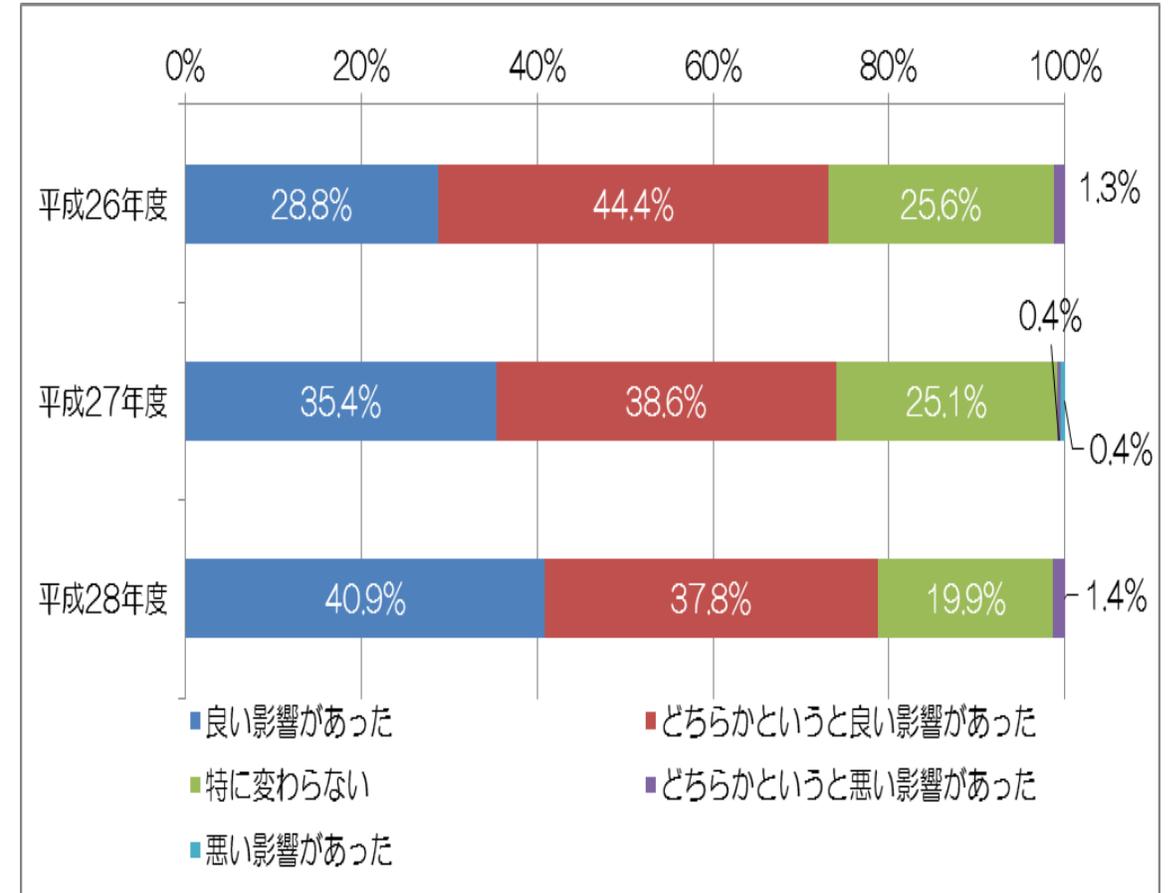
潜在能力が高い

候補者受入れによる職員・職場環境への影響

日本人職員への影響



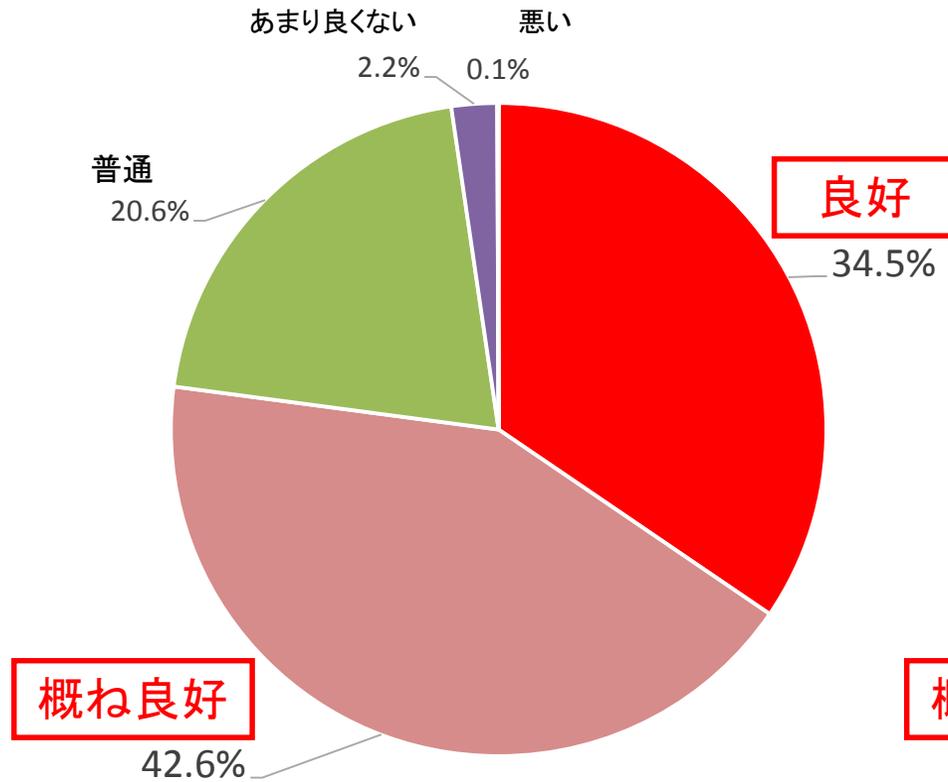
職場環境への影響



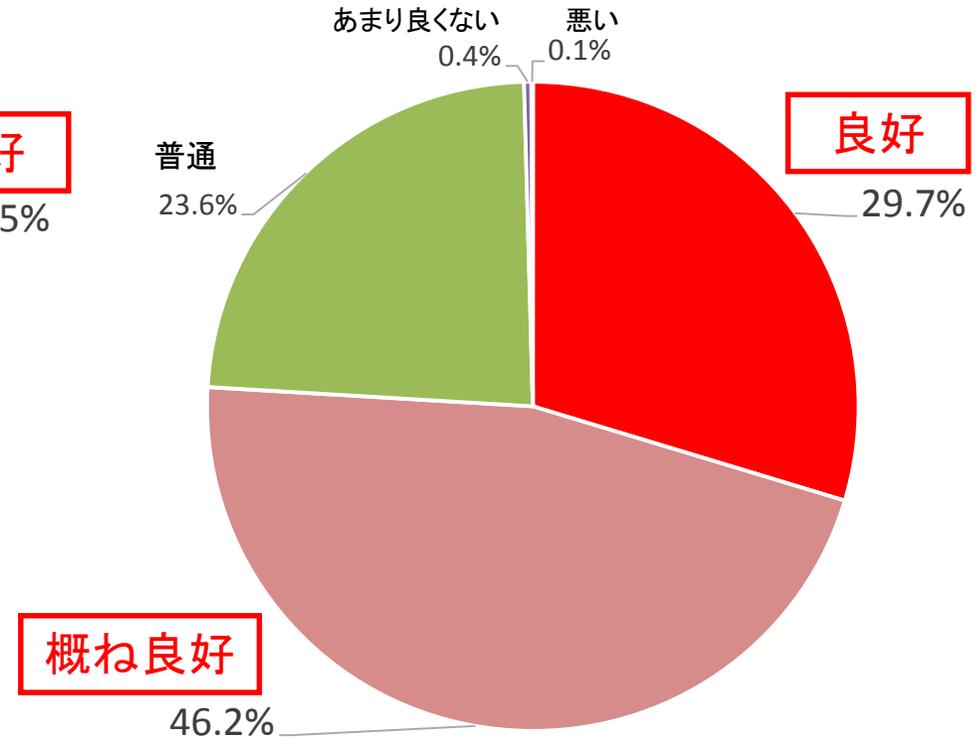
EPA候補者に対する職員、患者・利用者やご家族の反応

職員、患者・利用者・ご家族の約8割が、「良好」又は「概ね良好」な反応

職員の反応



患者・利用者、ご家族の反応



- ・受入れ施設にとって良かった点

- 介護現場が活性化

- 介護記録の記入を容易にする工夫など業務の標準化が進む

- 職員に良い刺激(介護試験受験者の増加など)

- 一体感が生じた(皆で応援)

- 教えることで自分も基本を見直す

- 異文化に触れる

最大のキーワードは日本語

○インドネシア・フィリピンは就労時約9割がN3相当、ベトナムは全員N3以上

○受け入れ施設は就労時N3、仕事を任せられるのはN2が必要との意見

○27年度入国者対象の集合研修結果

- ・実施テストにおける日本語関係の成績

 - 平均得点率 43.4% 内A国人60.3%

- ・日本語関係を除いた得点率

 - 平均得点率 59.9% 内A国人67.7%

- ・アンケートで先生の説明が「よくわかった」と回答した割合

 - 平均回答率 32.8% 内A国人46.5%

○従事割合の比較

- ・28年度巡回調査(ほとんどが就労時N3以上、12か月日本語修了者)

介助 98.3%

レクレーション・与薬 73.6%

記録等(記録、申し送り、月例会議) 69.1%

- ・24年度巡回調査(ほとんどが就労時N3未満、6か月日本語修了者)

介助 90.7%

レクレーション・与薬 47.3%

記録等(記録、申し送り、月例会議) 27.3%

- ・27年度入国者(12か月日本語修了者)と21年度入国者

(6か月日本語修了者)との1年目の従事割合比較

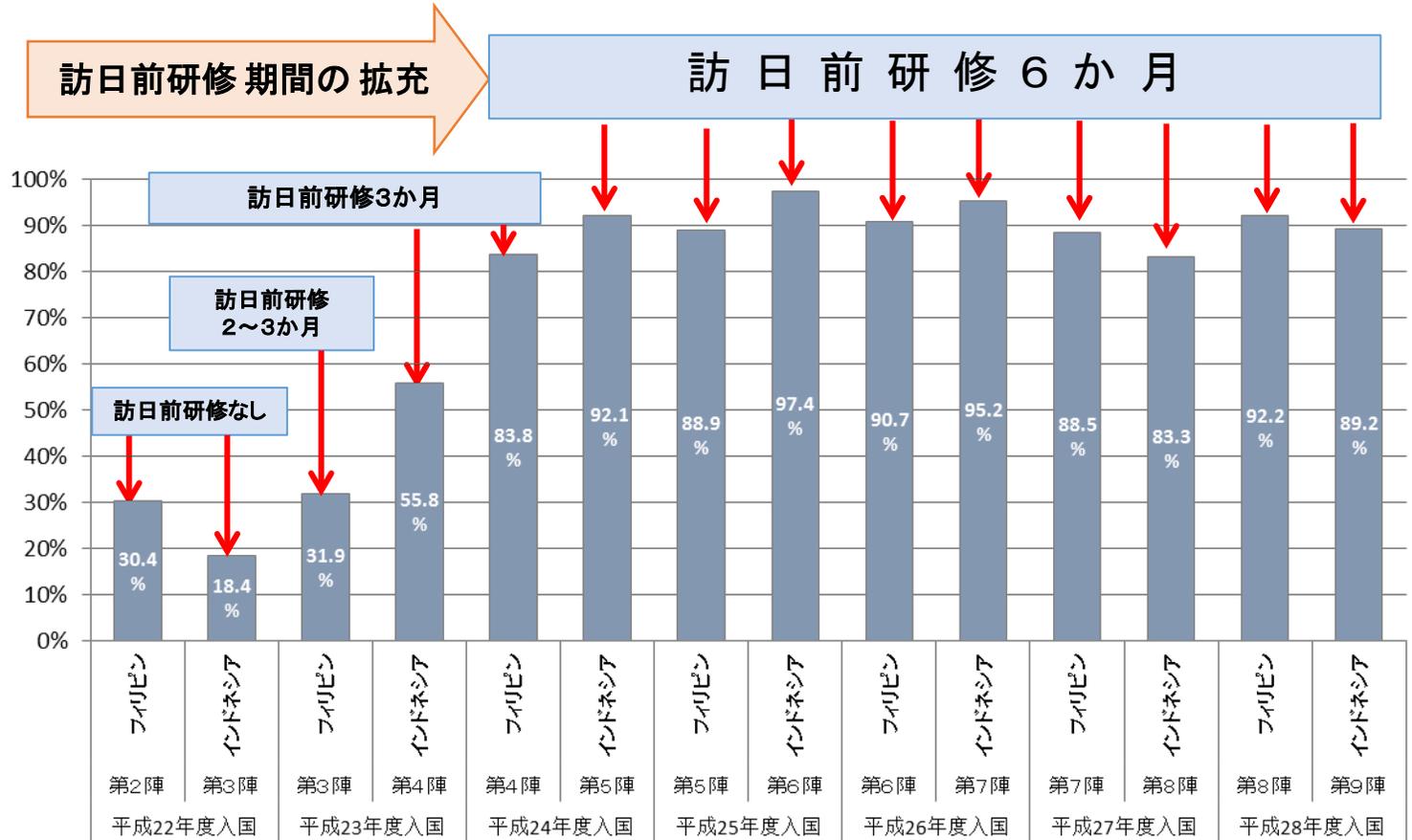
27年度 介助96.8% 記録 59.9%

21年度 介助80.1% 記録 4.9%

訪日前日本語研修期間の拡充による日本語能力の向上

- インドネシア及びフィリピンについて経済連携協定上義務づけられている6か月間の訪日後日本語研修に加え、平成23年度に入国した候補者から訪日前日本語研修を開始(当初は2~3か月間。)
- インドネシアについては、平成24年度に入国した候補者から、また、フィリピンについては平成25年度に入国した候補者から、訪日前研修の期間を6か月間に拡充。

訪日後日本語研修におけるN3程度到達度

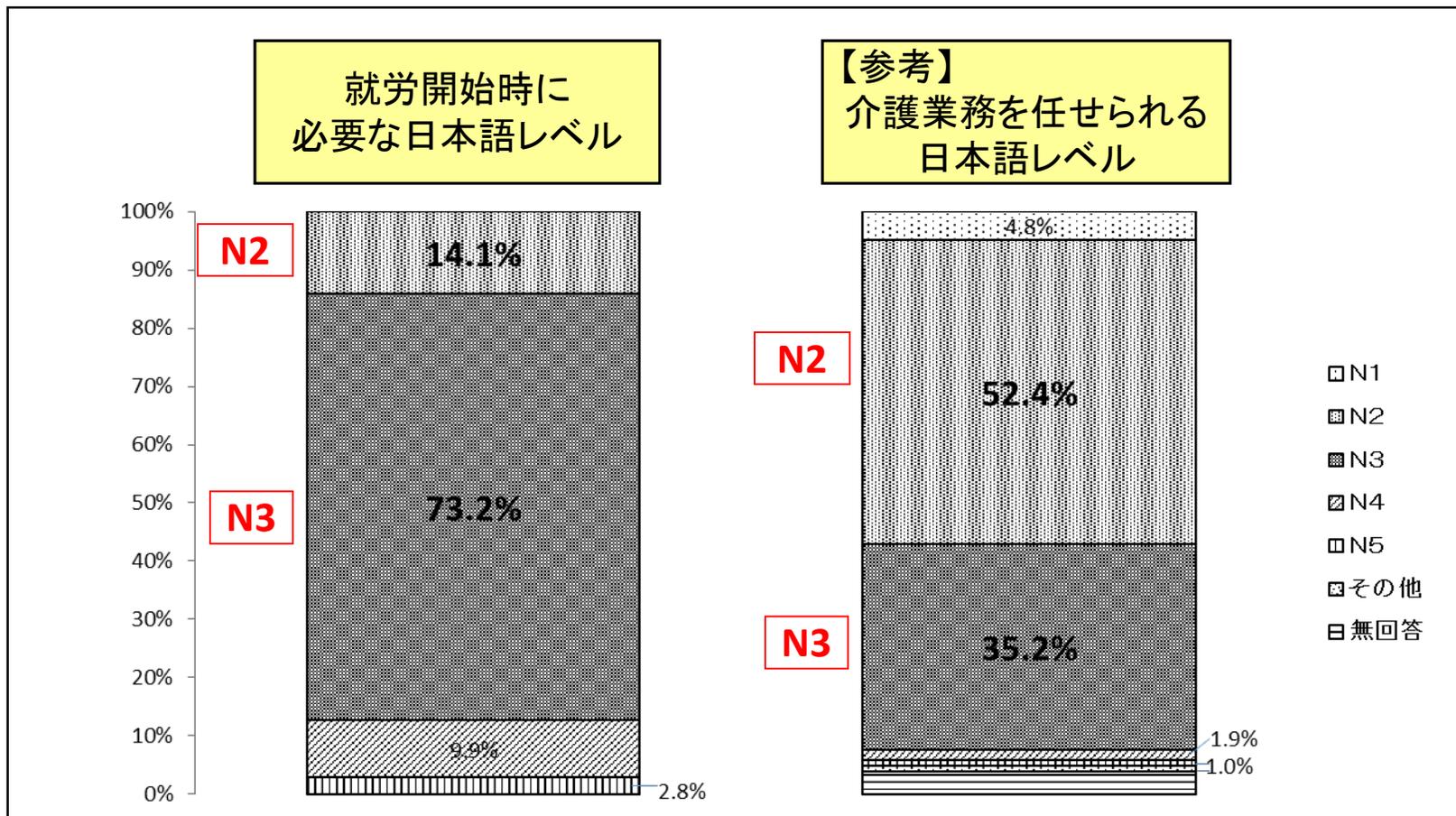


(注1)
「N3」は、日本語能力試験のレベル(N1~N5)のうちの一つであり、「N3」程度の日本語水準が候補者の就労・研修開始時に最低限必要とされるレベルの目安とされる。
※N3は「日常的な場面で使われる日本語をある程度理解することができる程度。」である。

(注2)
フィリピン第2陣~第3陣は看護師候補者のデータのみ、フィリピン第5陣は介護福祉士候補者のデータのみ(その他は看護師候補者と介護福祉士候補者のデータの合計。)

介護現場で必要とされる日本語能力レベル

施設の約9割が、日本語能力試験「N3」レベル以上と考えている。



【参考】日本語能力試験認定の目安について

- ・ N1…幅広い場面で使われる日本語を理解することができる。
- ・ N2…日常的な場面で使われる日本語の理解に加え、より幅広い場面で使われる日本語をある程度理解することができる。
- ・ N3…日常的な場面で使われる日本語をある程度理解することができる。
- ・ N4…基本的な日本語を理解することができる。
- ・ N5…基本的な日本語をある程度理解することができる。

EPA受入れの課題

○勉強時間の減少

- ・勉強の悩みは「勉強の時間が作れない」がトップ

○求人数の増加

- ・29年度受入れでは、インドネシアは372人の求人、フィリピン572人の求人があり、両国とも単年度受入れ上限の300人とマッチング、ベトナムは707人の求人、N3以上の資格者181人とマッチング

○資格者関係

- ・帰国者問題

合格者中4分の3程度が就労中
受け入れ施設からは批判がある

- 配偶者の就労時間制限

資格者となると配偶者、子供を呼び寄せられるが、
配偶者の労働は週28時間に限られ生計は厳しい

- キャリアアップ

日本語検定(84.3%)、 看護師資格(49.2%)、
ケアマネージャー(33.0%)

- 日本語、メンタルヘルスへの研修要望が強い